

報告 1. 支部恒例の忘年会を開催



2022年師走、横浜駅東口の豆腐料理専門店にて、コロナ禍でしばらく途絶えていた忘年会を開くことができました。

<忘年会に参加して>

2022年12月16日申し分のない晴天に恵まれ、3年ぶりの支部忘年会で皆様にお会いできる喜びを胸にいそいそと会場に向かいました。

温かい笑顔の皆様がお集まりの部屋に入るなり、故郷に帰ってきたようななにかホッとした安らぎをおぼえました。

急遽1名の欠席者があったことは残念でしたが程よい人数での会合となりました。逝去された守山泰さまへ黙祷をささげ、支部例会を行いました。

穂田支部長からの種々の連絡事項と鷺見さまからの2022年度国内奨学応募生のご報告をお聞きした後、忘年会になりました。

幸い房野さまと席が近かったため色々なお話を伺うことができました。1995年に行われたIFUW東京大会では資金の広告をいただくために今は亡き会員と色々な会社を奔走された苦労談・インターマッスル療法によって体調が良くなったこと・おれおれ詐欺の撃退談等々 懐かしいお話や身に迫るお話に唯々聞き入りました。

堀さまは以前支部長をしておられた時の資料

を大切に保管しておられてご持参になりました。電子化してJAUWのHPに掲載予定との由、神奈川支部の歴史の1ページとなることでしょうか。私の入会年月もスマホで検索してくださったことには感動しました。

楽しい時間は早く経つもので最後に記念撮影をして散会となりました。大切な一日の記憶を頭に永久保存し、神奈川支部の弥栄を祈りつつ帰路につきました。(西村寿美子)

- * やはり対面はいいですね、久々にたのしいひと時でした。(鷺見)
- * 支部の楽しい会をもうけてくださってありがとうございました。久しぶりに皆様にお目にかかれてお元気なご様子に私も元気をもらいました。房野さまにも久しぶりにお会いできてうれしかったです。(田邊)
- * 楽しかったですね。この数年間は、私が毎年実施の食事会の10件くらいは概ね不可になっています。今年は、この他に2つのみが食事会を実施しましたが、大半は実施できていません。日本も世界の各国も、早く環境を良くしてほしいですね。(石塚)
- * 限られた時間でしたので、皆さまからのお話をもっとお聞きしたかったのですが、2時間があっという間に過ぎました。(穂田)
- * 昨日は久しぶりに皆様にお目にかかれて、とても楽しい時間を設けていただき・・・また、支部総会後のいろいろなお知らせもお示しいただきありがとうございました。(渡部)

支部会員電話番号の変更
住所録への転載をお願いします

池上さん 090-8148-8419

板倉さん 090-3330-3763

松田さん 090-2173-4077

山瀬さん 090-1737-5455

報告 2. 2022 年度国内奨学応募生講演会

<酵母に学ぶエピジェネティクス>

2023 年 2 月 11 日（土、祝）13：30～15：00 ズーム開催による表記講演会を行いました。



中村 凜子さんは福岡市出身、九州大学農学部生物資源環境学科卒業、2020 年に総合研究大学院大学生命科学研究科に入学、愛知県岡崎市にある基礎生物学研究所に所属し、博士号取得を目指して遺伝子の基礎研究を行っている博士課程 3 年生です。

この総合研究大学院大学（長谷川真理子学長）は学部制ではなく、5 年一貫性の博士課程（3 年次編入も可能）を設置、本部は神奈川にありますが研究所は各地に分散していることを知りました。立派な研究棟に先端的機器類が整備され、中村さんは良き師、良き仲間めぐまれ、生き生きと研究に励んでいる様子が動画や映像により紹介されました。

「エピジェネティクス」とは聞きなれない分野ですが、遺伝子 DNA だけでは説明がつかない遺伝子の制御について研究する学問です。「エピ」はギリシャ語で「超える」という意味ですから、エピジェネティクスは、DNA の解析（ジェネティクス）を超える生命現象を科学的に解明しようとするもので、たとえば同じ遺伝子をもつ双子でも、からだの造りや行動に個性があるのはなぜか、

その不思議を解き明かそうとしています。

その不思議を解き明かそうとしています。

中村さんの研究により、特別な酵素が化学反応を引き起こし DNA に作用しているメカニズムの一端がわかってきました。生命の誕生、宇宙の神秘にまで思いを馳せながら、参加者 22 名共々に「分かりやすい、行き届いた」説明をうかがい、質疑応答も弾みました。

生命科学の分野を牽引する研究を展開しながら「後進の育成に尽力する研究者を使命としたい」との高い志をもつ中村凜子さんの基礎研究が、ゆたかな実を結び、後につづく研究者のロールモデルとして活躍されますよう心から願ってやみません。（鷲見八重子）

<<事後アンケートから>>

- * 私と研究分野は異なりますが、DNA のオン・オフが後天的に（周囲の環境による影響等で）変わりうるという話は、社会学がかつて行った「優生学」に繋がる議論であったり、今も障害者・障害児の教育分野で行われているような議論にも影響すると刺激を受けました。
- * 中村凜子さんの自己紹介から、中村さんがどのような経緯でこの研究の道を選ばれたか、また、実験の多い基礎学問を女性として続けていかれる情熱と可能性を知ることができ、今後「理系女」のロールモデルとして大変期待できる方だと思いました。

講演会は無事好評のうちに終了しました。快く講師をお引き受けくださった中村凜子様、運営にご助力をいただいた支部内外の方々、そして 20 余名の参加者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

エピジェネティクス

同じ遺伝子を持っていても、違う形・性質になることがある

身近なエピジェネティクスの例

<p style="text-align: center;">一卵性双生児</p> <p style="text-align: center;">遺伝子が全く同じでも見た目や病気のかかりやすさは異なる</p> 	<p style="text-align: center;">三毛猫</p> <p style="text-align: center;">茶色い毛と黒い毛細胞ごとに異なる</p> 
---	---

~~~~~ 大切なお知らせ ~~~~~

神奈川支部 2023 年度総会を開催します。ご多用中とは存じますが、ご予定にお加えください。

日 時：4月8日（土）12時～14時

会 場：かながわ県民センター708号室

（横浜駅西口徒歩 5 分）

~~~~~